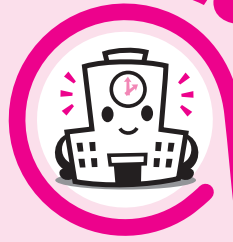


# つながる



## 学校と家庭の学び

# 保護者の手紙が児童の意欲を 高める「チャレンジウィーク」

### 長野県飯田市立丸山小学校

飯田市立丸山小学校は、家庭や職場で働く保護者の姿を通して「生きる力」を育む取り組みとしてキャリア教育を位置付ける。身近なところから出来る活動を積み重ねてきた結果、多くの子どもが人の役に立つ喜びを感じ取り、何事にも意欲的に取り組むようになったという。

家事を手伝うことで働く喜びを感じさせる

飯田市立丸山小学校は2009年度、飯田市のキャリア教育推進校に指定され、全学年でキャリア教育を始めた。北澤正光校長は、同校のキャリア教育を次のように位置付ける。「小学校に求められるのは、挨拶をする、時間を守るといったコミュニケーションの基礎や、社会の一員として役割を果たすこと、目標に向かって根気よく努力することなど、将来の社会生活に不可欠な力の育成で

す。つまり、これまでも大切にしてきた教育活動の延長上にキャリア教育があると考えています」

同校は、当時5年生の学級をモデルケースとして取り組みを進めた。柱となった活動は、年2回の「チャレンジウィーク」だ。子ども自身も1週間に家庭でどんなお手伝いをするかを決め、「学習カード」(図1)に毎日どれだけ出来たかを記録する。キャリア教育研究主任の熊谷博先生は、「チャレンジウィーク」のねらいを次のように話す。

「家庭での自分の役割や責任を果

たすことで、人の役に立つ喜びを知ってほしいと考えました。面倒でも自分で決めたお手伝いを毎日続け、大変さとその先にある達成感を得る体験は、働く素晴らしさに気付くことにもつながると思いました」

保護者には1週間のお手伝いの様子を見て感じたことを手紙(図2)に書いてもらい、担任から子どもたちに手渡した。「毎日、ご飯の支度を手伝ってくれてありがとう」「とても助かりました」など、感謝の気持ちを伝える手紙を読んだ時の子どもたちの様子を、5年生の担任だっ

た安藤幸彦先生は次のように話す。

「自分のお手伝いが保護者の役に立ったと分かって、子どもたちはうれしかったのでしよう。全員が恥ずかしがりながらも手紙を何度も読み返し、大切そうにしまっていました」

「チャレンジウィーク」の前後には、子どもはそれぞれ自分の思いを記入。始める前は「面倒くさくて嫌だなと思った」と書いていても、お手伝いをした後には「家族のためになるからやっていたかいたった。これからも続けたい」と書くなど、子どもの気持ちの変化が見て取れた。

図1 「食器をぴっぴかにしよう」という目標を立てたAさんの「学習カード」

家の友達からの応援メッセージ  
あきらめずに  
食器を洗ってしまおう

家族みんなも  
うなそう。  
がんばろうよ!

食器をぴっぴかにしよう

お家の方から応援メッセージ  
いっぴいでばく 菜いやくしやうね。

1 週間の記録

日	今日やったこと	明日工夫したいこと	評価(○・△)
10/13 (火)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○
10/14 (水)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○
10/15 (木)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○
10/16 (金)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○
10/17 (土)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○
10/18 (日)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○
10/19 (月)	食器を洗った。洗い残しがあった。	洗い残しがないように洗う。	○

1週間のお手伝いを終えて書いたAさんの感想

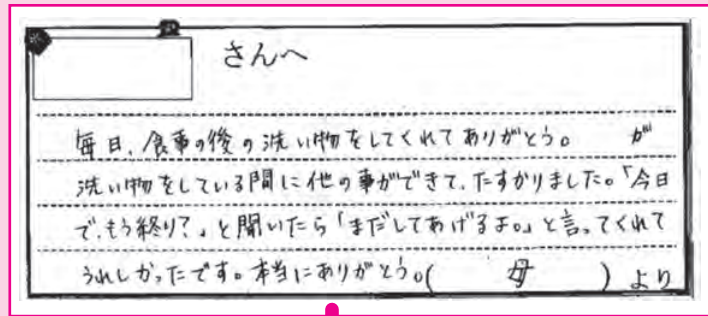
「お手伝いをすることでお家の人に喜んでもらえるし、これから先将来のことなど、自分のためになるから、これからもずっといろいろなお手伝いを、自分から進んで続けていきたいです。お母さんやお父さんを楽にさせてあげたいです。しっかり『チャレンジウィーク』が出来て良かったです。『チャレンジウィーク』をやるのにお母さん、班のみんなからの応援メッセージがあったから続けることが出来たんだと思いました」

「チャレンジウィーク」を始める前に、友だちと保護者に応援メッセージを書いてもらう。楽しい気持ちでお手伝い出来るようにするねらいた。「学習カード」は自宅に持ち帰り、お手伝いをした後に毎日、「今日やった感想」「明日工夫したいこと」を書いて一日を振り返る。お手伝いが「自分からできた」場合は○、「言われてできた」場合は○、「できなかった」場合は△を記入する

1週間のお手伝いを終えて書いたAさんの感想

「お手伝いをすることでお家の人に喜んでもらえるし、これから先将来のことなど、自分のためになるから、これからもずっといろいろなお手伝いを、自分から進んで続けていきたいです。お母さんやお父さんを楽にさせてあげたいです。しっかり『チャレンジウィーク』が出来て良かったです。『チャレンジウィーク』をやるのにお母さん、班のみんなからの応援メッセージがあったから続けることが出来たんだと思いました」

図2 Aさんと同じく、食後の食器洗いに取り組んだBさんの保護者からの手紙



保護者からの手紙を読んで書いたBさんの感想

「いつもお母さんに任せていたので、自分で出来ることは全部やりたい。お母さんたちのためにもっとお手伝いをしたいと思った」

「子どもは保護者に家事を教わり、実際にしてみることで、それがいい大変かを知ったようです。1週間の記録を付けたら、感想を書いたりすることで、自分の変化に気付いたり、意識次第で自分がどんどん変わっていきけるという実感も得られたでしょう。更に、保護者からの手紙で自分のお手伝いについての意義があったかも分かり、「お父さんやお母さんのためにもっと喜んでもらおう」という前向きな気持ちが生まれたのだと思います。保護者からは「子どもに感謝し、その思いを伝える良い機会になりました」という声が寄せられるなど、親子関係にも良い影響があるようです」(安藤先生)

「チャレンジウィーク」終了後も、

長野県飯田市立丸山小学校

○1873(明治6)年創立。2010年度、飯田西中学校と連携。両校の教師全員と校区内の三つの公民館長が出席する合同研修会を年3回行なうなど、地域と一体となってキャリア教育を進めている。

校長 北澤正光先生  
児童数 660人  
学級数 27学級(うち特別支援学級5)  
〒395-0071  
所在地 長野県飯田市今宮町2-113-1  
TEL 0265-22-0580  
URL <http://marusc.ed.iidanet.jp/>



飯田市立丸山小学校校長  
**北澤正光**  
Kitazawa Masamitsu  
「いかなる困難に直面しても一歩前へ足を踏み出す気力を持った子どもを育てたい」



飯田市立丸山小学校  
**熊谷博**  
Kumaqai Hiroshi  
キャリア教育研究主任、6学年担任  
「友だちにも両親にも地域にも、そして自分自身にも応えられる子どもを育てたい」



飯田市立丸山小学校  
**安藤幸彦**  
Ando Yukihiko  
キャリア教育係主任、5学年担任  
「今出来ること、目の前にすることに、常に一生懸命取り組む子どもになってほしい」

自分から家事を手伝う子どもが多いという。また、普段の学校生活でも自分から進んで掃除をしたり、机を運ぶ友だちを手伝ったりするなど、「学校でも自分の役割を果たそう」「友だちの役に立とう」とする姿が見られるようになった。

## 中学校とのつながりを意識し 6年生で職場体験を実施

10年度からは、同校の卒業生の大半が進学する同市立飯田西中学校と連携。将来、地元で活躍する人材を育てようと、「人とつながる力」「最後までやり抜く力」「夢や目標を描く力」「職業・仕事に関心を持つ力」「ふるさとを愛する力」の5つの力の育成という、小・中学校共通の目標を立てた。これを基に「飯田型キャリア教育」として、9年間のカリキュラムを作成している。

その一環として、夏休みに6年生が保護者の職場を訪問し、仕事のやりがいや大変さ、大切に行っていることなどをインタビューする「一日職場体験」を行った。

「中学校の職場体験では保護者の姿を見ることが少ないこともあり、子どもにとって貴重な経験になりま

す。また、職場で働く人たちの様子から、『挨拶をする』『時間を守る』『自分の考えを相手に伝える』という『学校で大事だと言われていること』を、大人もとても大切にしていることに気付いたようです。この気付きこそが、今の自分を見つめ直し、将来を描く上での手掛かりになるのではないのでしょうか」（熊谷先生）

## キャリア教育を通して 「生きる力」を育む

北澤校長は、保護者の働く姿を通して「生きる力」を育みたいと話す。「『チャレンジウィーク』では家庭での仕事を通して、『一日職場体験』では職場での仕事を通して、保護者がどのように働いているかを伝えてきました。子どもにとって最も身近な大人である保護者の働く姿を見ることで、働く意味や素晴らしさを感じ取り、人との関わり方の基本を知り、自立する力を身に付けてほしいと考えています。本校では、キャリア教育を人生や生き方を学ぶ教育といわば『生きる力』を育てる教育と位置付けています」

熊谷先生は、この2年間の成果を全校に広めたいと話す。

「先生方は『チャレンジウィーク』や『一日職場体験』を見て、本校のキャリア教育が目指す『生きる力』の育成について理解を深めてきました。身近なところから出来る活動を続ければ、子ども自身が人の役に立つことに喜びを覚え、何事にも意欲的に取り組むようになることを感じていると思います。全学年の教師が一人ずつ参加するキャリア教育部会を設け、子どもたちのために各学年で何が出来るか、保護者の理解をどう得るかを、毎月の部会で話し合っています」

家庭に対しては、学級だよりや懇談会などで活動のねらいや子どもの様子を伝えていく。更に、北澤校長からも協力を呼び掛けている。

「学校だよりや参観日の講話などを通して、私が感じる子どもの成長を保護者に伝えていきます。学級担任からだけでなく、校長として学校の姿勢や目指す子ども像をこまめに伝えることでも、学校と家庭の結び付きを強められると考えています。学校と家庭が連携して子どもを支えられる関係、『チーム丸山』を目指して、今後も活動を続けていきたいと思えます」（北澤校長）

## キャリア教育の授業でご活用いただける 6年生向けの無料教材の事前予約受付中！

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2010年度は、のべ約11,000校から約187万冊ものお申し込みをいただきました。

2011年度は、小学6年生の児童向けに、1月にキャリア教育の授業に役立つ副教材を無料でご提供いたします。ただ今、予約受付中です。詳しくは本誌同送のチラシをご覧ください。

ぜひ貴校の教育活動にお役立て下さい。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

未来に進むちからを育むプロジェクト。  
ベネッセの学び応援

事前予約締め切り

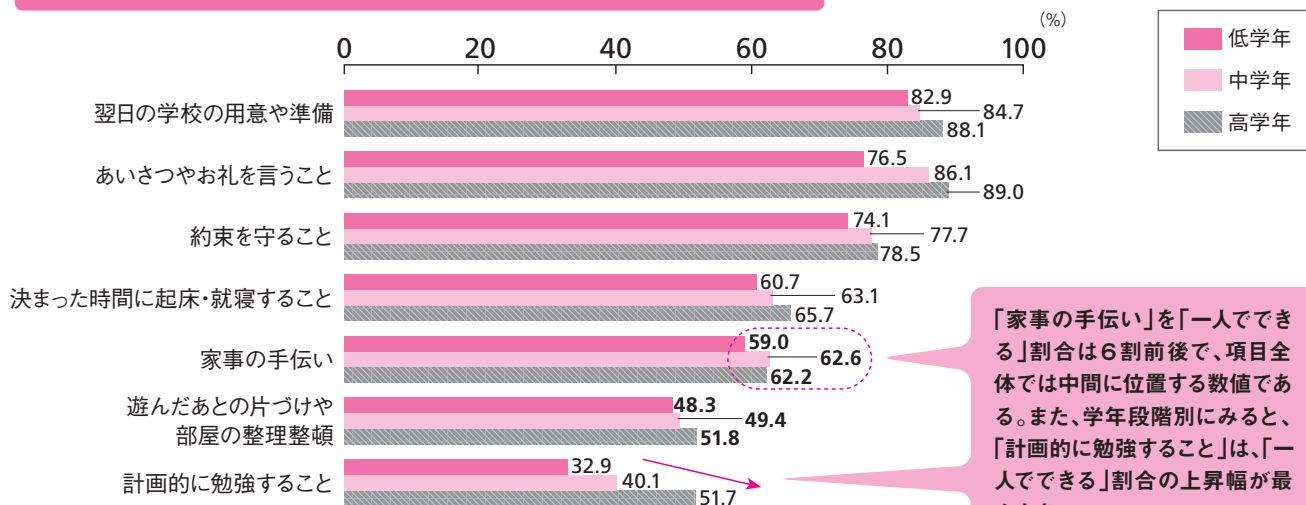
2011年

11/30 水



## 6割の子どもが「家事の手伝い」を一人でできる

### 日ごろの生活習慣



「家事の手伝い」を「一人でできる」割合は6割前後で、項目全体では中間に位置する数値である。また、学年段階別にみると、「計画的に勉強すること」は、「一人でできる」割合の上昇幅が最も大きい

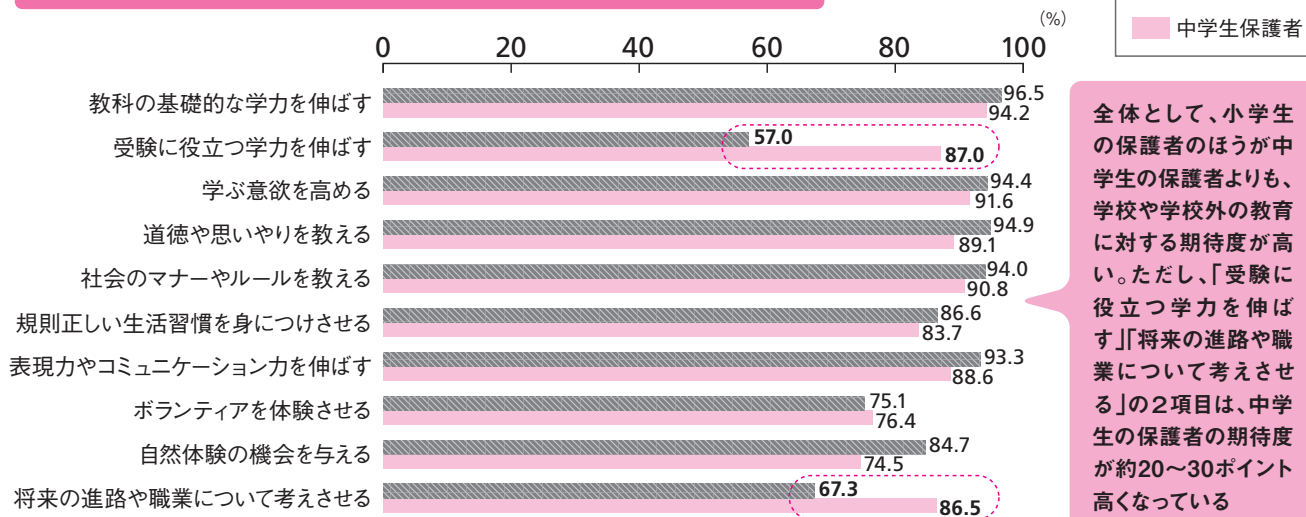
注) 数値は、「完全に一人でできる」と「だいたい一人でできる」を合計した割合

出典: **Benesse教育研究開発センター「第3回子育て生活基本調査」**

調査時期は、2007年9月、調査対象は首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者7,282人(うち小学生の保護者は3,625人)、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査

## 小学生の保護者は、受験や将来の進路よりも、基本的な学力や生活習慣の定着を望む

### 保護者が学校や学校外の教育に期待すること



全体として、小学生の保護者のほうが中学生の保護者よりも、学校や学校外の教育に対する期待度が高い。ただし、「受験に役立つ学力を伸ばす」「将来の進路や職業について考えさせる」の2項目は、中学生の保護者の期待度が約20～30ポイント高くなっている

注) 数値は、「とても期待する」と「まあ期待する」を合計した割合

出典: **Benesse教育研究開発センター「学校教育に対する保護者の意識調査2008」**

調査時期は、2008年3月、調査対象は全国の小2生、小5生、中2生の子どもの保護者5,399人(うち小学生の保護者は3,427人)、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!  
<http://benesse.jp/berd/>  
\*「調査・研究データ」コーナーをご覧ください